

全日本断酒連盟

50年史

50年をふりかえる



全断連結成大会（昭和38年11月10日）



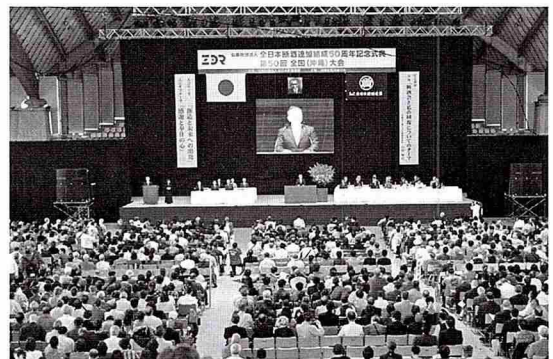
松村春繁初代会長
昭和43年9月23日第5回全国（静岡）大会



第1回断酒学校（昭和40年9月4日）高知市五台山吸江寺



全断連本都会館起工式
（昭和52年4月 東京都豊島区目白）



第50回全国（沖縄）大会
全断連50周年記念式典
（平成25年11月17日）

全日本断酒連盟50年史

年月日	項目	主な動き
昭和10年 6月10日 (1935年)	AAの創始	ビルとボブの出会い、AAの結成へ
昭和125年 (1950年)	AAの紹介	禁酒同盟・山室武甫がAAを「禁酒新聞294号」に紹介する
昭和26年 4月3日 (1951年)	下司孝麿の アルコール 治療	下司病院院長・下司孝麿はアルコール依存症治療コースの中でアンタビューース（ノックビン）とエメチンを組み合わせた「抗酒剤」を第48回日本精神神経学会総会で発表した。
昭和27年 2月19日 (1952年)	AAの研究	AAの創始。禁酒同盟が禁酒使節として大辻君子を米国に派遣、ワシントンAA等10カ所ほど講演、見学を行った。
		7月6日禁酒同盟内に酒害相談部を設置。後日、酒害相談部に訪ねてきた人を中心に断酒友の会が結成される。
		9月山室武甫、エール大学からの招聘により受講生としてAAに関して受講。
昭和28年 9月12日 (1953年)	断酒友の会 結成	同盟内に「断酒友の会」（担当・上堀内秀雄）を発足させる。 山室武甫、12カ条の誓約を提案。断酒友の会はAAの日本支部であり、日本禁酒同盟の姉妹団体であって、会員は同盟の準会員として扱われると謳われている。 また、断酒友の会発足当時はAA日本支部として記事等は匿名とし、断酒誓約もAAの12カ条を採用したが、半年後「AA日本支部」の名称を返上、本邦独自の運営に転換した。 *小塩完次は日記に「22名出席、奥さん同行組に熱気を感じた。やはり病者相憐で行く運動で行くべきで、（私の）介入の余地はないようだ」と書いている。
昭和31年 (1956年)	断酒友の会禁 酒同盟を脱退	同盟内に路線対立が生じ断酒友の会は同盟から脱退し、独立した活動を行うことになる。
昭和32年 (1957年)	武庫川病院で AA開催	武庫川病院（現兵庫医大病院）の医師・吉田優が当初、抗酒剤だけで治療を始めるが宣伝ほどの効果がなく、院内で毎日曜日AAを開催する。昭和40年6月には松村春繁と大阪断酒新生会の小椋淳吉が武庫川病院を訪問し吉田優と対談しているが、その後消滅。現在のAAとは関係ない。
昭和33年 (1958年)	断酒互助会	禁酒同盟、同盟内の断酒会を「断酒互助会」と改名する。

1月13日	松村春繁、 下司孝麿氏 からの手紙	松村春繁は一人で断酒しており、下司孝麿氏は松村からの年賀状に返事 を送る。この中で「アメリカにAAという会があって断酒に成功してい る。酒にとらわれている方々の救世主に」なるように勧めている。
11月9日	小塩完次 高知で講演	禁酒同盟・小塩完次氏は大塚製薬社長・中沢寅吉氏の招きにより下司孝 麿氏主催の講演会に出席。高知保護会館にて講演を行い、AAの詳細お よび「断酒友の会」の活動を紹介する。 松村春繁、小原寿雄が出席しており、松村春繁の動議により高知県断酒 新生会の結成に結びつく。
11月25日	高知断酒新生 会発足	高知県断酒新生会発足（会員2名） 会長・松村春繁、副会長・小原寿雄、顧問・下司孝麿、秦泉寺正一、中 沢寅吉
12月5日	東京断酒新生 会発足	東京断酒新生会発足（委員長・大久保勇） 禁酒同盟の中に残っていたグループと断酒友の会について出て行ったグ ループの有志が合流して東京断酒新生会を発足させる。この時点では東 京断酒新生会は、禁酒同盟の中にあった。
昭和34年 3月22日 (1959年)	「全断連」 結成前の動き	高知県断酒新生会の街頭行進。NHK、ラジオ高知、各種新聞社が報 道。
昭和35年 12月9日 (1960年)	東京・白菊 禁酒婦人会 発足	婦人矯風会館にて東京白菊会禁酒婦人会（会長・大野卓子）発足
昭和36年 11月12日 (1961年)	新聞断酒の 発行	下司病院が「新聞断酒」（発行人・下司孝麿、編集人・松村春繁）を発 刊。正式には後の全断連の機関誌ではないが、全断連の機関誌的な役割 を果たす。
昭和37年 4月1日 (1962年)	東京断酒新生 会、禁酒同盟 から独立	東京断酒新生会、禁酒同盟の運営並びに会計から独立する。
昭和37年	八丈島断酒道 場開設	禁酒同盟が八丈島断酒療養所を開設。児玉正孝、鷺山純一らが入所、鷺 山純一が退所後、静岡県断酒互助会を設立する。
7月28日	高知県アル コール問題研 究所発足	研究所所長に下司孝麿、所員に川崎清直、秦泉寺正一、沢村栄一、松村 春繁が就任。「新聞断酒」は昭和37年8月20日、第8号より高知県アル コール問題研究所の発行となる。
8月11日	高知・夫を酒 から守る婦人 の会発足	大野卓子ら白菊禁酒婦人会9名が高知県断酒新生会の家族と交流するた め高知を訪れる。 これを契機に高知にも「夫を酒から守る婦人の会」が結成される。
昭和38年 10月15日 (1963年)	アルコール専 門病棟の設置	国立療養所久里浜病院に国内初めてのアルコール依存症専門病棟（40 床）が設置される。
昭和38年	松村春繁、 久里浜病院を 訪問	下司孝麿氏の紹介状を持ち、松村春繁が国立療養所久里浜病院に堀内秀 氏（なだいなだ）を訪門。堀内秀医師がヨーロッパで学び自助グループ を作りたいと思っていた時で、タイミング良く受け入れられた。

11月10日	全断連結成	高知市はりまや橋の土電会館にて全断連結成大会を開催。 大会は高知県断酒新生会5周年記念大会と併催、東京から大野徹、卓子夫妻が参加し記念講演を行う。 この大会は全国的展開を提唱する高知県断酒新生会会長・松村春繁に東京断酒新生会が呼応したもの。参加者250名
12月13日	福岡県における断酒会の発足	松尾病院に入院中の末永豊紀はテレビで東京断酒新生会の活動を知り、断酒会の結成を決意する。昭和38年12月13日、松尾院長の後押しで、仲間5名と共に北九州禁酒友の会（会長・末永豊紀）を発足させる。九州で初めての断酒会誕生である。 断酒会活動が軌道に乗りつつあるとき、全断連初代会長・松村春繁が全国行脚の途中、松尾病院を訪れたことで、全国の断酒会との交流を目的とし、昭和41年8月21日、全断連に加盟し、会名を北九州断酒友の会と改称した。 その後、同県内の断酒会を糾合、昭和50年6月1日福岡県断酒連合会（会長・末永豊紀）を結成した。更に昭和54年9月16日、福岡県断酒連合会から分かれて福岡県断酒協議会（会長・浦山惣三郎）を結成、現在に至っている。
昭和39年 3月1日 (1964年)	静岡県における断酒会の発足	静岡県には昭和34年4月、禁酒同盟から分離独立した断酒友の会・清水支部が出来て、鷺山純一も参加するが、脱落者が続出し、3年後には消滅した。 昭和38年11月20日、鷺山純一が八丈島断酒療養所を退所後、断酒会結成を決意。昭和39年3月1日静岡県断酒互助会（会長・鷺山純一、後に静岡県断酒会に改名）結成、昭和39年3月8日に鷺山宅で第1回の例会を開催。参加者12名、会員数5名で出発する。
3月29日	第1回全断連理事会	東京YMCAにて開催。39年度運動方針等可決。国際アルコール対策総局に加盟。
4月5日	断酒子供会発足	高知県断酒新生会が断酒子供会を発足させた。下司病院内断酒会事務所で第1回を開催。約30名が集まりお母さんと一緒にフォークダンスをしたりウクレレに合わせて、歌ったりレコードを聴いた。
10月22日	静岡県断酒互助会全断連に加盟	全断連への第1号加盟。禁酒同盟に送られた静岡県断酒互助会の機関誌「あしたば」創刊号（昭和39年8月25日）を発行。これを見て松村春繁は静岡県に断酒会が結成されたことを知る。さっそく10月22日に訪ね、同日付で静岡県断酒互助会は全断連に加盟する。 その後、静岡県断酒会は昭和52年4月1日に社団法人の設立認可があり、S52.4.17に社団法人設立記念式、並びに酒害更生啓蒙大会を静岡市産業会館で開催する。
昭和40年 3月27日 (1965年)	鳥取県における断酒会の発足	鳥取では鳥取大学医学部・神経精神科教授・新福尚武氏の尽力で断酒会が結成される。昭和40年3月27日、米子市教育会館米子荘で新福尚武教授の司会で第1回を開催、鳥取県断酒会が発足。同時に全断連に加盟する。会員8名、世話人・竹本良明。 昭和56年4月1日、鳥取県断酒連合会発足。

4月6日	八丈島断酒道場開設	静岡県断酒互助会が八丈島に断酒道場（道場長・児玉正孝）を開設。昭和43年1月閉鎖。
5月31日	松村春繁 全国行脚	松村春繁が全国行脚し断酒会を広めたことは有名であるが、「新聞断酒」にて「断酒行脚」の欄ができる。 この欄で松村春繁の軌跡を辿ることができる。
9月4日	断酒学校の始まり	高知県断酒新生会主催の第1回断酒学校を高知県五台山吸江寺で開催。39名参加。以後、毎年春秋2回開催（昭和61年より春1回に変更）、現在は「松村断酒学校」と呼ばれている。
11月14日	第2回全国高知大会	第2回全国（高知）大会 高知土電会館にて300名参加。 来日中のオーストラリアの心理学者・マーガレット・サージェント女史が「オーストラリアのアルコール中毒患者に関する私の研究」と題して特別講演を行う。
11月15日	NHKで放送	昭和40年11月12日に吸江寺で開催された第2回断酒学校がNHKで放映され、全国各地の酒害者とその家族から照会が相次ぎ大きな反響があった。
11月23日	北海道における断酒会の発足	室蘭市立病院祝津分院の斉藤義寛氏の指導で昭和40年11月23日に北海道で初めての断酒会、「室蘭断酒会」が発足、同日全断連に加盟する。会長、加藤栄太郎。 昭和46年2月28日、北海道断酒連合会が発足し、発足と同時に全断連に加盟する。会長、原田ひろし。
12月19日	鳥根県における断酒会の発足	昭和40年12月19日、安来第一病院医師・大村道雄氏は同院にて院内断酒会（会長・米沢昭三）を立ち上げる。 松江日赤病院医師・福田武雄は昭和42年11月岡山で開催された第4回全断連全国大会に参加し、病院から独立し、酒害者本人が運営する断酒会の必要性を痛感するようになる。 昭和42年12月松江市に、昭和43年9月8日出雲市に地域断酒会が結成された。当時、松村春繁は全国行脚の一端として出雲市を訪問、鳥根県立中央病院で自身の体験談と断酒会への加入を呼びかけた。 昭和43年10月6日、安来、松江、出雲の断酒会が合流し鳥根県断酒新生会（会長・森山繁樹）を創立、発足と同時に全断連に加盟。
昭和41年 1月29日 (1966年)	岡山県における断酒会の発足	昭和34年、山方辰三郎は断酒を決意して岡山の禁酒会館に相談に行き断酒互助会に入会する。その後、昭和40年5月、断酒互助会の例会に松村春繁が参加、体験談を交えた熱弁に感激して交際を始める。当時の互助会の参加者は酒を飲まない敬虔なクリスチャンが殆どで道徳的説教がまかり通っていた。 山方辰三郎は松村春繁から互助会と袂を分かち酒害者の自主的な団体としての断酒会を結成するように勧められ、悩んだ末に昭和41年1月29日、会員7名で岡山県断酒新生会を岡山市労働会館にて発足させ、同日全断連に加盟する。（会長・山方辰三郎）

2月25日	香川県における断酒会の発足	酒害に苦しむ岩崎廣明は香川県立丸亀病院院長・西村忠一氏により、松村春繁の來県を知り参加、牟田昭三と出会い、断酒会の設立を勧められる。昭和41年2月25日、牟田昭三宅にて香川県断酒新生会（後に香川県断酒会に改名）が発足。同日全断連に加盟（会長・岩崎廣明）。
5月8日	ブロック大会の先駆け	鳥取、鳥根、岡山の3県断酒会が米子市皆生温泉「友恭寮」で交歓会を開催、ブロック大会の先駆けとなる。 第2回は、昭和42年5月5日日興証券3階ホールにて高知の当番で開催。中・四国断酒ブロック会議の名称となる。100名が参加した。 昭和45年4月19日松江の松江市青少年センターで開催された第5回より中・四国断酒ブロック大会となる。二百数十名の参加
5月29日	松村春繁倒れる	松村春繁、脳血栓で倒れる。言語障害に加え、ベッドから起き上がる事さえできなくなった。全国行脚で積み重ねてきた疲労が、病気の進行に拍車をかけていた。
6月12日	全断連臨時理事会	松村春繁全断連会長の突然の入院という不測の事故により全断連臨時会議を第4回断酒学校開催中の吸江寺にて開催。新会長は選出せず、東京断酒新生会会長の犬野徹が代行の任に当たる事が決まる。
10月16日	広島県における断酒会の発足	昭和41年春、夫の酒害に悩んだ熊野うた子と広島市南区東雲町の一角にある一軒の酒屋の店先に「広島県酒害相談所」の個人看板を掲げた八丈島断酒道場長・児玉正孝の妻・児玉菊子との出会いがあった。昭和41年8月31日、夫・熊野久夫の6回目の退院を機に岡山県断酒新生会会長山方辰三郎の計らいで、昭和41年9月4日、熊野久夫のために岡山県断酒新生会特別例会を開催、親子3人で出席する。 八丈島断酒道場で休業中の高橋和義の帰広を機に、断酒会結成を思い立った児玉菊子が呼びかけ、昭和41年10月16日に会員4名、家族2名によって「広島断酒ふたば会（会長・熊野久夫）」の発会式を広島市平和祈念館で挙行、全断連に加盟する。続いて昭和42年2月9日、呉みどりヶ丘病院の協力で「呉みどり断酒会」が発足、昭和46年6月27日には広島県断酒会連合会を発足させる。発会から6年目、昭和47年7月2日飲酒運転追放パレードを会員50名、乗用車14台で実施、今日まで継続されている。
11月5日	大阪府における断酒会の発足	大阪ではまず、昭和41年1月9日に大阪市の高島照雄と西宮市の小椋淳吉や神戸市の友好が大阪市住吉区・高島照雄宅にて大阪断酒新生会を結成し、全断連にも加盟するが活動は低迷し途切れてしまう。 昭和41年11月5日、大阪断酒会が発足。浜寺病院本館1階クラブ室で浜寺病院医師・小杉好弘と二見泰之助等12名が参加し発足例会を開催する（会長・二見泰之助）。二見泰之助は昭和42年7月29日、会長を辞任。大阪断酒会を発展させた石野健夫（2代目会長）も浜寺病院の院内生として参加していた。大阪断酒会はS43.1に全断連に加盟する。

11月13日	全国大会を各地で 第3回全国 (東京)大会	第3回全国大会が東京神田の学士会館で開かれ、約400人が参加した。第2回までは高知で開催されたが、以降全国の主要都市で順次開催される事となる。 神奈川県久里浜病院アルコールセンター主任・堀内秀氏(なだいなだ)が講演。全断連婦人部が結成され、白菊婦人会会長・大野卓子より挨拶があった。
昭和42年 2月24日 (1967年)	山口県における断酒会の発足	山口県の断酒会の歴史は防府病院院長・水津和夫氏の肝いりで、昭和42年2月24日防府病院貴和クラブで開催された山口県やわらぎ断酒会の発会から始まる。(会員13名、会長・渡辺靖)発会と同時に全断連に加盟。「やわらぎ断酒会」の発会后、昭和45年10月には宇部銀鈴断酒会が西宇部病院断酒会から独立し、昭和53年に萩しつき断酒会、とよぎく断酒会が発会したのを契機に、昭和53年12月山口市の山口県身体障害者福祉センターにおいて山口県断酒連合会の結成式を行う。(会長・渡辺靖)
3月19日	松村春繁終身 会長に	第6回全断連理事会を高松市野田会館にて開催。松村春繁会長を終身会長に、大野徹を会長代行に選出する。
昭和42年	福島県における断酒会の発足	佐藤茂が八丈島断酒道場で半年間の断酒精神修行を終えたのち昭和41年10月1日全断連大野徹会長代行より「福島県酒害相談」の看板を頂き断酒活動に入る。翌年42年には全断連福島支部(いわき断酒会の前身)が発足。 その後発足した断酒会と共に昭和47年5月6日福島県精神衛生センターにて福島県断酒しゃくなげ会設立総会を開催すると同時に全断連に加盟。(初代会長は佐藤茂)
5月	熊本県における断酒会の発足	熊本県では、菊池有働病院院長・中村敬二氏の指導の下、昭和42年5月に院内禁酒会が出て断酒の明かりが灯った。やがて昭和43年に「禁酒では手ぬるい、断酒でなければだめだ」という意見が出て断酒会に改名、昭和44年3月菊池断酒友の会として全断連に加盟。 昭和45年10月、熊本市断酒友の会が発足、昭和50年4月菊池と熊本市が合併し、「熊本県断酒友の会」を結成。
7月9日	茨城県における断酒会の発足	昭和42年7月9日、東京断酒新生会茨城県支部として永田正三、遠藤正文両氏により断酒会がスタート、昭和42年8月2日土浦市の永田正三宅で初例会を開催する。昭和45年8月、茨城県断酒新生会として東京断酒新生会から分離独立、断酒活動の拠点づくりに支部結成へと広がりを始める。昭和60年4月28日、7断酒会が石岡市府中地区公民館において、茨城県断酒連合会の結成式を行い、同日全断連に加盟。平成14年2月茨城県断酒つくばね会と改称しNPO法人格を取得する。
11月10日	和歌山県における断酒会の発足	中村公彦の父、中村彌次郎氏はNHKテレビ番組の「スタジオ102」で断酒会の存在を知る。さっそく全断連に連絡を取り大野徹の紹介で中村公彦が国立久里浜病院に入院する。 昭和42年8月25日、中村公彦が久里浜病院を退院する時、堀内秀(なだいなだ)より断酒会設立を勧められ、木島病院内に断酒会の設立を準備している米田栄之医師を紹介され訪問する。

		<p>昭和42年9月16日、木島病院内で断酒会設立準備会を開催し、昭和42年11月10日に友綱断酒会が発足。会員2名（会長・中村公彦）</p> <p>昭和42年11月17日、全断連加盟。</p> <p>昭和44年4月に和歌山断酒道場が開設された影響で奈良支部、兵庫支部が結成され、「阪和断酒会友綱」と改組・改名、その後昭和51年4月1日和歌山県断酒会友綱と改称。</p> <p>平成4年4月1日、和歌山県断酒連合会を結成。</p> <p>平成14年1月31日NPO法人認証、現在に至っている</p>
昭和42年	伸びゆく全断連	現在の“躍進する全断連”の前身である“伸びゆく全断連”が発行される。
11月12日	第4回全国岡山大会	第4回全国（岡山）大会が山陽新聞社ホールにて開催し、400名の参加があった。岡山大学医学部・三井尚氏が講演を行う。
昭和43年 1月 (1968年)	徳島県における断酒会の発足	<p>昭和39年7月14日、守山雅美が城西病院院長室で徳島断酒木陰会を発足させ、第1回の集いを開催する。昭和39年12月10日、結成大会を開催する。会員5名。しかし、徳島断酒木陰会はその後消滅した。</p> <p>その後、清水治や大島博行は国鉄病院医師・磯島正氏の勧めで、高松の例会（香川県断酒会）に通い始め、昭和43年1月に市立園瀬病院にて10名の参加を得て、徳島での初例会が開催される。昭和43年2月同病院にて香川県断酒会・徳島支部を結成。</p> <p>昭和46年2月21日、香川県断酒会5周年記念大会の席で徳島県断酒会を結成、分離独立して全断連に加盟。</p>
4月18日	愛媛県における断酒会の発足	<p>昭和43年4月18日、香川県・岩崎廣明らが十全第二病院院長・小野昌也氏を訪問、小野昌也院長は従来の節酒療法は止め、断酒方式に切り替えることを決意、十全第二病院内で愛媛県東予断酒会を結成、愛媛県に断酒運動の最初の明かりが灯った。（初代会長は長井益生とし、輪番制を敷いた）</p> <p>昭和47年7月、断酒会石鎚が、東予断酒会から分離独立。昭和49年11月に4断酒会で愛媛県断酒連合会を結成する。</p>
5月5日	千葉県における断酒会の発足	<p>遠藤孝成は久里浜病院へ数回入院の末、東京断酒新生会に入会し、昭和43年5月5日に東京断酒新生会千葉支部（支部長・金田光世）を結成する。</p> <p>昭和46年9月24日、東京断酒新生会から分離独立して千葉県断酒新生会（会長・遠藤孝成）が発足。その後、支部が発足するが、昭和54年10月各支部を地域断酒会として改組。昭和58年4月1日には地域断酒会のまとめ役として千葉県断酒連合会が発足し、同日全断連に加盟。</p>
9月23日	第5回全国（静岡）大会	第5回全国（静岡）大会 静岡市駿府会館にて開催、1,500名が参加。記念講演は、日本アルコール医学学会長・小片重男氏と国立久里浜病院医師の堀内秀氏（なだいなだ）が行った。

12月7日、 12月13日	ある人生	松村春繁の半生の記録を紹介した「ある人生」が2回に分けてNHKより全国放映。大きな反響を呼んだ。
昭和44年 4月27日 (1969年)	石川県における断酒会の発足	石川県における断酒会の発足には医療関係者の協力が大きく寄与した。県立高松病院医師・道下忠蔵氏や松原病院長・松原太郎氏の尽力で昭和43年12月8日に石川県精神衛生協会精神科医療専門委員会主催の第1回断酒会例会を開催。昭和44年4月27日石川県社会教育センターにて石川県断酒新生会（会長・塗師尾国員）が発足する。出席者は、会員31名、来賓8名。発足と同時に全断連に加盟。
4月29日	埼玉県における断酒会の発足	昭和44年4月29日、埼玉県労働会館で高沢晋之助ら4名が東京断酒新生会埼玉支部を設立する。（支部長・高沢晋之助） 昭和46年10月3日、東京断酒新生会から分離独立し、埼玉県断酒新生会が発足する（会長・高沢晋之助）。同日、全断連に加盟。
6月1日	本部事務所建設募金開始	昭和44年4月全国理事会で正式事業として本部事務所の建設が決議されたことを受け昭和44年6月1日より募金運動が開始された。
6月29日	ブロック大会	第1回関東・東海ブロック大会を熱海市アタミ観光ホテルにて開催。147名参加。
8月14日	全断連本部会館登記完了	昭和44年4月10日、全断連常任理事会による東京目白全断連本部会館建設に関する協議に基づき全断連本部会館の土地建物購入を実行。昭和44年8月14日登記完了する。
10月26日	第6回全国（高知）大会	第6回全国（高知）大会 高知市県農協会館にて500名の参加者を集めて開かれた。 松村春繁会長は病床を押して出席、「皆さんは私の屍を乗り越えて全国の150万のアル中と500万の家族に断酒幸福を与えるためにこの運動を続けていただきたいと思う」と挨拶する。
11月10日	和歌山断酒道場開所式	連盟顧問・中村彌次郎氏の寄贈で和歌山県由良町白崎海岸に和歌山断酒道場（道場長・児玉正孝）を開設。140名参加。
昭和45年 1月15日 (1970年)	長崎県における断酒会の発足	福川辰夫がNHK「スタジオ102」を見て断酒会の存在を知り、全断連に連絡すると北九州断酒友の会を紹介され、昭和42年2月14日に入会する。昭和45年1月15日、佐世保福祉センターで、北九州断酒友の会・長崎支部、名称を長崎県断酒友の会（会長・福川辰夫）として発足し、全断連に加盟。会員7名。 昭和51年7月、各地に誕生した13の断酒会を統合し、長崎県断酒連合会を結成、同時に全断連に加盟。
1月30日	松村春繁逝去	全断連の生みの親であり、初代会長の松村春繁が脳軟化症悪化のため永眠。同年2月2日に高知市吸江寺で連盟葬を行う。65歳であった。
3月21日	大野徹を2代目全断連会長に選出	第10回全断連理事会を岡山曹源寺大書院にて開催。松村春繁会長死去に伴い会長代行であった大野徹を全断連会長に選出する。

4月20日	栃木県における断酒会の発足	昭和44年11月5日、大貫純一郎は和歌山断酒道場に入所、終了後、児玉正孝道場長との約束で栃木県に断酒会を作ることを決意、昭和45年4月20日、菩提寺妙正寺で4名の同志と共に栃木県断酒ホトトギス会（会長・大貫純一郎）を発足させ、全断連にも加盟する。会の名前は児玉正孝道場長が命名。
5月10日	愛知県における断酒会の発足	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋断酒会の発足 主婦・松山雅子が全断連に連絡し、紹介された倉田誠とともに3名で名古屋国際ホテルのロビーに集まり、名古屋で初めての例会が開催された。昭和45年4月桜天神社の社務所を借り、第1回目の例会を開催。昭和45年5月10日に桜天神社にて名古屋断酒会（会長・倉田誠）を発足させた。発会時の会員数は19名。昭和45年6月16日松山雅子は婦人会の必要性を感じ婦人会を発足させた。 ・豊橋断酒会の発足 昭和47年7月1日、末吉清堂は浜松断酒会会長・田辺陽三宅で豊橋断酒会準備委員会を開催、昭和47年11月12日、井原公民館で豊橋断酒会が発会した。初代会長・末吉清堂。会員数39名。 ・西尾断酒会の発足 刈谷保健所所長・田島氏は、西三河地域で節酒会「清正会」を作る。昭和52年5月8日に「清正会」のメンバーは名古屋断酒会との交流から西尾断酒会を発会させた。初代会長・牧豊彦。昭和49年5月10日、名古屋断酒会と豊橋断酒会は名古屋駅前・中小企業センターにて愛知県断酒連合会を発足させた。同日、第1回中部・北陸ブロック大会開催。昭和50年4月1日、全断連加盟、会長・辰巳克司。
5月	ある“アル中”の栄光と死	作家、なだいなだ氏（堀内秀）が文芸春秋に「松村初代会長物語 ある“アル中”の栄光と死 入院5回 自殺未遂2回。全身アルコールに漬かった男が日本各地に断酒会を組織するまで」を掲載する。
5月25日	日精連加盟	全断連、社団法人日本精神衛生連盟に加盟。
8月1日	社団法人認可	全断連は厚生省から社団法人の認可を受ける。
8月23日	アルコール問題連絡協議会発足	日本アルコール問題連絡協議会発足、全断連も加入する。
8月	岐阜県における断酒会の発足	<p>昭和41年8月21日、畠中実が土岐市泉聖十字病院退院後、聖十字病院院長と相談し院内断酒会として「聖友断酒会」を発足させた。</p> <p>昭和45年8月、高山市国府町の須田病院内に県内1番目の断酒会として高山断酒会が発足。</p> <p>昭和47年4月1日、聖友断酒会は東濃断酒新生会と改名し、県内2番目の断酒会となる。</p> <p>昭和47年7月15日、全断連に加盟。昭和50年4月1日、高山、東濃、岐阜、岐阜日赤の4断酒会が大同団結し、「岐阜県断酒新生会」（現岐阜県断酒連合会）を設立し、全断連に加盟。</p>

8月16日	宮崎県における断酒会の発足	山元節雄は全断連の事務局次長の太田良雄と文通例会をする中で北九州断酒友の会・宮崎支部を立ち上げた。 昭和45年8月16日、宮崎県婦人会館にて宮崎県断酒友の会を創立、第1回例会を開催する。(会長・松浦二男、会員18名) 昭和45年10月10日、全断連に加盟。
9月1日	松村語録	松村春繁の遺した言葉を求め、全国に送ったアンケートより126枚の回答を得た。これを50の項目にまとめて“新聞断酒100号”(昭和45年9月1日発行)に掲載。 この50の項目が後に松村語録として知られるようになる。
9月15日	第7回全国(北九州)大会	第7回全国(北九州)大会 北九州市民会館にて開催。 参加者1,217名。松村春繁初代会長の遺影が掲げられた。以後、全国大会やブロック大会等の全断連の大会だけでなく、各地の大会や研修会でも松村春繁初代会長の遺影を掲げることが多い。
11月22日	神奈川県における断酒会の発足	神奈川県で一番初めにできた断酒会は川崎断酒新生会。久里浜病院を退院した田中豊他7名で結成。昭和40年3月21日川崎市労働会館にて第1回断酒例会を開催する。その後、川崎断酒新生会は神奈川県断酒新生会に改名、昭和40年5月5日川崎市労働会館にて結成式を開催する(会長・田中豊)。 その後、組織の結成と同時に全断連に加盟。後日、酒害更生会と組織変更し、全断連を脱会する。 昭和42年1月8日、久里浜断酒新生会(現、横須賀断酒新生会)発足(会長、峯尾貞雄)。同日全断連に加盟する。 昭和42年12月3日、湘南断酒新生会(現、湘南地区断酒協議会)発足(会長、山口清春)。同日全断連に加盟する。 昭和44年5月12日、横浜断酒新生会発足(会長、柳沢正幸)。同日全断連に加盟する。 昭和44年10月19日、大和つくし断酒会発足(会長、佐藤貞雄)。同日全断連に加盟する。 昭和45年5月17日、川崎断酒新生会発足(会長、霜田一男)。同日全断連に加盟する。 昭和45年5月17日、三浦断酒会発足(会長、蛭田隆司)。同日全断連に加盟する。 初期の久里浜病院を退院した柳沢正幸(横浜)、田中豊(川崎酒害)、峰尾貞雄、西村忠(横須賀)、山口清存、後藤作重、岡田喜代志(現湘南協議会)、続いて霜田一男(川崎)、蛭田隆司(三浦)の各氏が県内各地に散り断酒会を創立した。また、大和つくし会の創始者・佐藤貞雄は、県立せりがや病院の出身であった。柳沢正幸は東京断酒新生会に入会し、昭和44年5月12日連合会の中軸である横浜断酒新生会を立ち上げた。 当時の神奈川県は7断酒会が独立割拠で、あまり横の連絡はない状態であったが、大野徹全断連会長代行(後理事長)の「神奈川が一本になって、来年の第2回大会を担当してほしい」との要請により横の連絡活動が始まり、昭和45年11月22日に県内7断酒会が神奈川県断酒連合会を結成、同時に全断連に加盟する。(会長・山口清存)

<p>昭和46年 1月15日 (1971年)</p>	<p>兵庫県における断酒会の発足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪和断酒会友綱兵庫県支部の発足 昭和46年1月15日、生野瑛（尼崎）と行本高好（神戸）が阪和断酒会友綱兵庫県支部を三井銀行湊川支店ホールで立ち上げた。（支部長・行本高好） 昭和47年2月27日、神戸市立婦人会館で阪和断酒会友綱より分離独立。会員数57名で結成大会を開催、兵庫県断酒会とした（会長・行本高好）。結成と同時に全断連に加盟。 ※昭和63年4月1日、後述の兵庫県断酒連合会発足に伴い、兵庫県断酒会は神戸市断酒会に改名した。 ・ 大阪断酒会尼崎支部の発足 昭和46年9月3日、阪和断酒会友綱を退会した八木順一が大阪断酒会尼崎支部を発足、支部長に就任した。 昭和51年4月1日、大阪断酒会より分離独立し尼崎断酒会を設立（会長・八木順一）。昭和51年8月6日全断連加盟。 ・ 岡山県断酒新生会・赤穂支部の発足 昭和47年6月、黒田昭治が岡山県断酒新生会赤穂支部を結成。昭和57年6月、岡山県断酒新生会より分離独立し赤穂断酒新生会を発足。会員16名。発足と同時に全断連に加盟。 ・ 兵庫県断酒連合会の発足 昭和63年4月1日に18断酒会が大同団結し兵庫県断酒連合会を結成。
<p>3月13日</p>	<p>第1回 通常総会</p>	<p>社団法人となって初めての代議員会が昭和46年3月13日東京都勤労者福祉会館で開催。179名の代議員が参加する。 代議員会は2回目より通常総会と名前を改める。</p>
<p>4月1日</p>	<p>奈良県における断酒会の発足</p>	<p>昭和46年4月1日、和歌山断酒道場を退所した古谷二郎が阪和断酒会友綱奈良支部を結成する。 昭和47年7月2日に阪和断酒会友綱より分離独立、吉野郡大淀町の越部公民館で奈良県断酒会を発足させ全断連にも加盟する。（会員6名、会長・勝井一太） 昭和62年5月奈良県断酒会は奈良県断酒連合会に改組。</p>
<p>6月20日</p>	<p>新潟県における断酒会の発足</p>	<p>昭和45年6月1日、河渡病院院長・本田正則氏の提唱で河渡断酒新生会（三膳久助会長）が誕生。 昭和45年7月19日、佐潟荘院長・上村忠雄氏の提唱で断酒白鳥会（中元栄造会長）が誕生する。 昭和46年6月20日、両断酒会が母体となり新潟市で新潟県断酒友の会を設立。（会長・中元栄造）発足と同時に全断連に加盟。 その後、変遷を経て平成13年3月11日、新潟県断酒連合会（会長・斉藤寅二）設立総会、及び発会式を河渡病院体育館で開催した。</p>

7月18日	山陰断酒学校の開校	高知県断酒新生会の協力を得て昭和46年7月18～20日、松江市善導寺にて第1回山陰断酒学校が開かれ、47名の参加があった。
7月24日	長野県における断酒会の発足	昭和46年7月24日、長野保健所（所長・小山雄吉）主催の講演会開催時、入会者を募り長野断酒会を正式に発足させた。 昭和54年7月8日上田市勤労者福祉センターにおいて長野県断酒連合会発足（会長・小宮山忠良）。参加者200余名同日全断連に加盟する。
10月	冊子の発行	事務局より断酒情報第1号「断酒会結成のしおり」が発行されたのを皮切りに「入院中のなかまへ」「断酒集会さまざま」などの冊子が次々に発行される。 また全国大会ごとに発行していた「躍進する全断連」の内容も啓発用の資料へと改革する。
10月21日	ブロック大会	第1回北海道ブロック大会が室蘭市民会館で開催される。 約100名参加。
11月22日	第8回全国（東京）大会	第8回全国（東京）大会 虎の門久保講堂にて開催。 参加者1,500名。「アルコール中毒は治るか」をテーマに断酒討論会を行う。
昭和47年 1月10日 (1972年)	三重県における断酒会の発足	高茶屋病院医師・大越崇氏、猪野亜朗氏らの働きかけで昭和47年1月10日津市吉田山会館で三重断酒新生会（会長・山本道衛）を結成、同時に全断連に加盟。 昭和49年12月24日、社団法人格を認可された。
4月30日	第2回通常総会	第2回通常総会、岡山県教育会館にて開催。長期事業計画を策定する。 “躍進する全断連”を発行。躍進する全断連は当初、総会時に配布されていた。
9月16日	山梨県における断酒会の発足	昭和45年8月5日、静岡県の鷲山純一と住吉病院医師・松野正弘氏の尽力で住吉病院内で院内断酒月例会が開催された。 昭和47年9月16日、その後も静岡県断酒会の応援を受け山梨県断酒会結成大会が甲府市の山梨県社会福祉会館において開催された。 初代会長・青柳秋蔵。結成と同時に全断連に加盟。
10月22日	群馬県における断酒会の発足	昭和45年8月15日に群馬断酒会みやま（会長・脇野実）が発足するが後述の分福断酒会の発足後数ヵ月後には消滅。 昭和47年10月22日、群馬断酒会みやま・東毛支部として館林市・茂林寺において、分福断酒会（会長・尾形秀夫）が発足、着実な活動で県内に波及していった。 昭和54年10月28日太田市福祉会館で群馬県断酒連合会の結成式を開催、全断連に加盟する。平成12年10月1日群馬県断酒連合会は解散。平成21年4月26日、3断酒会により群馬県断酒連合会を再発足させ、全断連に再加盟。
11月4日	第9回全国（広島）大会	広島県立体育館にて開催。参加者数1,440名。 呉みどりヶ丘病院院長・長尾澄雄氏が記念講演。大会テーマは「心の調和」であった。

昭和48年 3月31日 (1973年)	機関誌「全断連」の発行	昭和36年11月12日、下司病院より「新聞断酒」が発行され、全断連の機関誌の役割を果たしていたが、連盟結成10周年を機に連盟の機関誌を発行する事になる。 不定期に発行していた「全断連」は29号までとなり、昭和59年5月1日、「かがり火」と改名し定期（2カ月に1回）に刊行、今日に至る
5月27日	第3回 通常総会	第3回通常総会、アタミ観光ホテルにて開催。
昭和48年 8月6日	京都府における断酒会の発足	昭和46年4月に京都嵯峨神経科病院を母体とした京都嵯峨断酒会（会長・丸岡甚一、現京都断酒会）が発足し京都に断酒の灯りがついた。昭和48年6月に宇治黄葉病院を母体として京都府平安断酒会が誕生、烏丸診療所で第1回の例会を開催した。（会長・鎌田貞蔵） 昭和49年10月、京都府平安断酒会は京都府断酒平安会に改称し、全断連に加盟する。京都の断酒会の活動の支柱となり、福知山、滋賀等各地に断酒会を広げていったのは京都府断酒平安会であった。昭和54年1月、3断酒会で京都府断酒協議会を結成。 昭和61年10月、京都府断酒連合会に改名する。
7月1日	福井県における断酒会の発足	福井県では福井県精神衛生センターが中心となり断酒会が誕生した。昭和47年11月9日福井県厚生部と精神衛生センターの共催で地元新聞社の協力を得て、断酒会の前身である第1回の断酒の集いを開催、東京断酒新生会の黒川、北陸断酒新生会の塗師尾会長、同佐藤副会長夫妻が参加、その体験談はアルコール依存症者の社会復帰への一筋の光として認識を改めさせた。その後、参加するメンバーも固定してきたので昭和48年7月1日、県民会館で福井断酒新生会を結成、全断連に加盟。 昭和50年8月7日、福井県断酒連合会が発足。初代会長・定兼善次
7月14日	行政・医療との連携	第8回アルコール医学会総会を東京市ヶ谷の私学会館で開催。大野徹理事長が評議員に選出される。
9月30日	ブロック大会	第1回近畿ブロック大会、岸和田市民会館にて開催。 主管 阪和断酒会友綱
10月	行政・医療との連携	全断連顧問下司孝磨氏が長年にわたる酒害問題への功績により保健文化賞を受賞。
11月25日	第10回 全国 (大阪) 大会	第10回全国（大阪）大会、大阪市東淀川体育館にて開催。 参加者2,500名。大阪市大病院小杉好弘精神科部長が記念講演を行った。
昭和49年 1月31日 (1974年)	行政・医療との連携	大野徹理事長が社団法人日本精神衛生連盟（現保健福祉連盟）理事長に就任。鷺山純一全断連副理事長が静岡県精神衛生審議会臨時委員の委託を受ける。
5月26日	第4回 通常総会	第4回通常総会、熱海市 国鉄網代保健指導所にて開催。
6月16日	ブロック大会	第1回中部・北陸ブロック大会 愛知県中小企業センターにて開催。

9月16日	第11回 全国 (横浜) 大会	第11回全国(横浜)大会、横浜市文化体育館にて開催。 参加者2,300名。この大会ではメインイベントを断酒と社会復帰の体験 発表に絞り6名の体験発表を行った。 前日、第1回「家族の集い」が開催された。200名参加
7月	岩手県におけ る断酒会の発 足	新聞で断酒会の活動を知った成島開峰は全断連に電話、昭和49年7月、 一人で岩手県断酒会と立ちあげるとすぐに大川繁が呼応する。 昭和50年11月22日、「岩手みちのく断酒会」発足、同日全断連に加盟 (会長・大川繁)。昭和55年8月遠藤五郎氏の協力を得て県立北陽病院内 に「岩手県県北断酒会」発足(会長・田沢覚弥)。同日全断連に加盟。 昭和56年1月、上記3断酒会で「岩手県断酒連合会」(会長・大川繁) を結成し、全断連にも加盟。
昭和50年 5月8日 (1975年)	山形県におけ る断酒会の発 足	昭和50年5月8日南陽市立病院神経精神科医長、佐藤忠弘氏の勧めで同 病院を退院した高畠町在住の7名が猪野修作氏宅にて初例会を持ち、山 形県高畠町断酒会(会長・丸山信晃)を結成したのが始まり。昭和51年 11月24日に全断連に加盟。 その後、昭和57年鶴岡断酒会、昭和58年長井断酒会新生会が発足、昭和60 年米沢にも断酒会が発足し、半年後には高畠町断酒会を加えた4断酒会 で山形県断酒連合会(会長・丸山信晃)を結成。
6月15日	第5回 通常総会	第5回通常総会、名古屋港湾会館にて開催。
7月13日	大分県におけ る断酒会の発 足	“伸び行く全断連”には昭和43年6月29日、大分断酒会(大分県向井病 院断酒友の会に改称)は、大分市向井病院にて結成式を行い60名の参加 があったと記録にあるが、その後の記載はなく消滅したものと思われる。 昭和49年、伊藤良明が北九州断酒友の会小倉支部へ入会。 昭和50年7月13日、大分県断酒友の会が発足(会長・伊藤良明)。会員 はわずか2名という発足であった。 昭和52年5月、全断連に加盟。1保健所1断酒会を目標に、発足後7年 間で12支部を設立。昭和56年6月、大分県断酒友の会副会長・佐藤寿彦 の尽力によりアルコール症専門病院「大分友愛病院(院長・佐藤寿彦 氏)」を設立。 昭和58年9月22日、社団法人格が認可され、社団法人大分県断酒連合会 と改名する。(理事長・今川嘉人)
8月25日	第12回 全国 (札幌) 大会	第12回全国(札幌)大会、札幌厚生年金会館にて開催。参加者1,500 名。札幌天使病院の村田忠良氏が記念講演を行う。
11月6日	沖縄県におけ る断酒会の発 足	沖縄県に初めて断酒の火が灯されたのはコザ保健所の中で保健師を中心 に、昭和50年1月6日コザ保健所もくよう会(会長・稲嶺盛俊)の名称 で発会式を持たれたことから始まる。もくよう会は昭和51年12月16日 沖縄県断酒友の会に改名、名称変更を機に全断連に加盟。 石川信太郎らの働きにより1保健所1断酒会を目指して各地に断酒会を 発足させ、平成5年7月11日沖縄市民会館で沖縄県断酒連合会が誕生し た。

11月29日	宮城県における断酒会の発足	宮城県で断酒の灯が点ったのは、仙台の講演会に参加し大野理事長に断酒会の結成を促された菅井佳夫が奔走、昭和50年11月29日に菅井佳夫宅で第1回目の例会を開催したことに始まる。青葉断酒会と命名し、同日全断連に加盟。5名の船出であった。 昭和62年10月15日、宮城県内断酒会が加盟し「宮城県断酒連合会」を結成し、同日全断連に加盟。 平成12年7月5日NPO法人を取得し、NPO法人宮城県断酒会に改名する。
昭和51年 2月28日～ 3月1日 (1976年)	第1回全国酒害者相談員研修会	国立療養所久里浜病院&ホテルケーブンシャトーにて。 37都道府県約120名参加
4月1日	滋賀県における断酒会の発足	滋賀県では昭和42年2月滋賀県断酒新生会（昭和53年湖東断酒会に改名）を結成、全断連にも加盟するが大きな発展はなく昭和56滋賀県断酒同友会と合併する。 一方、昭和49年に野沢延が京都府断酒平安会に入会、昭和51年4月1日に京都府断酒平安会・滋賀支部を発足させる。会員5名。 昭和52年4月29日京都府断酒平安会より分離独立、草津市民会館にて滋賀県断酒同友会（会長・野沢延）を発会。 昭和56年5月9日全断連に加盟。
6月6日	第6回通常総会	第6回通常総会、横浜市 産業貿易センターにて開催。 全断連本部事務所建設募金目標が決議される。
9月26日	第13回 全国（高松）大会	第13回全国（高松）大会、高松市市民文化センターにて開催。参加者2,025名。香川県精神衛生センター西村忠一所長の記念講演あり。
12月	秋田県における断酒会の発足	昭和47秋、秋田市の川辺が上京の折、東京の断酒例会に参加。その後、昭和50年頃より川辺、正木、河田の3人が「岩手みちのく断酒会」の例会に通い始める。 昭和51年2月21日に打矢三栄が和歌山断酒道場を修了、秋田に帰る。秋田にも正木らがいる事を知り合流、昭和51年12月秋田県断酒新生会（会長・正木信）が発足。会員20余名。 昭和53年5月21日、秋田県断酒連合会（会長・打矢三栄）を結成し同時に全断連に加盟。
昭和52年 2月11日 (1977年)	大雪断酒学校開校	昭和52年2月11～13日国立大雪青年の家にて第1回大雪断酒学校が開かれる。参加者数54名。
3月27日	東北ブロック大会	昭和44年6月29日より開催された関東・東北ブロック大会が分離独立、第1回東北ブロック大会がいわき文化センターにて開催される。参加者数250名。
6月12日	第7回通常総会	第7回通常総会、名古屋市 中村区役所講堂にて開催。
11月20日	第14回 全国（福岡）大会	第14回全国（福岡）大会、福岡市民会館にて開催。2,600名参加。 下司病院院長・下司孝麿氏が「断酒と断酒会運動の展望」と題して記念講演を行う。

12月17日	全断連目白事務所開設	全断連目白事務所がオープン。竣工披露式開催。30都道府県百数十名参加。披露式では建設に終始一貫協力者であった下司病院院長・下司孝磨氏に感謝状が贈られた。 昭和44年10月、事務所建設の募金開始。昭和52年7月着工、同10月竣工と8年越しの計画が成就した。
昭和53年 2月10日 (1978年)	富山県における断酒会の発足	富山市民病院五福分院に草野亮氏が赴任し院内断酒会を開始、退院者を中心に昭和45年4月12日に富山県断酒友の会を結成するが3～4年の内に自然消滅する。昭和51年3月上市厚生病院の協力で上市断酒会（会長・山岸昭一）が発足する。 昭和53年2月19日、小田久松が五福分院を退院後、富山断酒友の会を再興し気持ちを一新するため「富山断酒のぞみの会（会長・小田久松）」とした。昭和61年5月18日に県下7団体で富山県断酒協議会を発足させ、全断連に加盟。昭和62年富山県断酒連合会と改称し現在に至っている。
5月	国立総合アルコールセンター設立	国立療養所・久里浜病院に同センターの一部である特殊診療棟と研修棟が完成。連盟加盟の断酒会が総力を結集した設立運動が結実した。
6月11日	第8回通常総会	第8回通常総会、名古屋市北区役所にて開催。 各地に「酒害相談断酒センター」の建設が決議される。
11月11日	第15回全国（高知）大会	第15回全国（高知）大会、高知県体育館にて開催。参加者2,252名 前日、地元福祉事務所主催の「関連機関分科会」（現在のアルコール関連問題関係者会議）が開催された。
昭和54年 6月14日 (1979年)	第9回通常総会	第9回通常総会、名古屋市北区 名城チサンホテルにて開催。
11月11日	第16回全国（静岡）大会	第16回全国（静岡）大会、静岡市文化会館にて開催。 参加者3,500名。浜松医大大原健士郎教授の記念講演と異色ともいえる室井琴鶴師匠の「戦国武将に学ぶ」との講談があった。 前日、全国の女性会員の集会である第1回「アメシストの集い」が開催された。14名参加。
12月	県助成の断酒施設実現	昭和54年12月、静岡市に「静岡県断酒会館」、昭和55年3月には鳥根県断酒新生会の「新生園」がそれぞれに県の助成を得て建設される。
昭和55年 5月 (1980年)	青森県における断酒会の発足	青森県の断酒会は昭和55年10月弘前市の藤代衛生病院にて津軽断酒会（会長・菊地安矩）が発足した事に始まる。 混迷の時期もあったが、昭和60年8月新会長に米田鉄美を選出、昭和60年10月全断連に加盟する。 その後、昭和61年断酒うとうの会、昭和63年あすなろ断酒会が発足、平成1年5月20日に青森県断酒連合会が結成され、青森市民文化会館にて結成大会を開催。
6月15日	第10回通常総会	第10回通常総会、名古屋市中村区役所講堂にて開催。

11月2日	第17回 全国 (松江) 大会	第17回全国（松江）大会、松江市総合体育館にて開催。 参加者3,300名。日赤松江病院福田武雄精神神経科部長の記念講演があった。
昭和56年 6月 (1981年)	「米国ヒューズ法」紹介書を発行	社会福祉法人丸紅基金の助成により、日本アルコール問題連絡協議会が「アルコール中毒者の社会復帰に関する調査・研究・米国のヒューズ法をめぐって」を発行 全断連から岩田昌二、岩田富士夫、松野孝次郎の三氏が編集委員として参加した。アルコール問題の総合対策基本法の実現が急務との観点から、米国における「アルコール乱用及びアルコール症の治療と社会復帰に関する総合法（いわゆるヒューズ法）の研究に取り組んだ。
6月14日	第11回 通常総会	第11回通常総会、東京都目黒区国民年金中央会館にて開催。普及・宣伝のために“躍進する全断連1980年度版”“断酒の手引き”“幸せへの道”“話し合うなかま”を発行することを決定する。
8月29日	第18回 全国 (名古屋) 大会	第18回全国（名古屋）大会、愛知県体育館にて開催。 参加者4,043名。日本福祉大学窪田暁子教授が大会テーマと同じ「人と人との豊かな出会い」との演題で記念講演を行う。
昭和57年 6月20日 (1982年)	第12回 通常総会	第12回通常総会、東京都新宿区四谷公会堂にて開催。
9月4日	東北断酒学校 開校	昭和57年9月4～5日、国立岩手山青年の家にて第1回東北断酒学校が開かれる。参加者数30名。
10月24日	第19回 全国 (和歌山) 大会	第19回全国（和歌山）大会、和歌山県立体育館にて開催。 参加者4,200名。紀ノ川病院米田栄之院長の記念講演があった。
昭和58年 1月1日 (1983年)	「断酒会－依存より創造へ」発行	高知県断酒新生会が25周年記念事業として出版。A5版、653ページ。 なだ・いなだは「松村春繁研究の原点であると同時に、全断連研究の原点となるもの」と評している。
2月20日	ブロック大会	第1回九州ブロック大会が長崎市平和会館にて開催。 1,100名参加
4月1日	「酒害相談員 研修通信講座 用テキスト」 の発行	全断連創立20周年記念事業として「酒害相談員研修通信講座用テキスト」を発行。「公衆衛生におけるアルコール問題」「集団心理療法」「断酒会の機能と性格」「A・A」「諸外国におけるアルコール問題対策」等全12冊。受講期間は昭和58年4月1日～昭和59年2月28日までであった。
6月	第13回 通常総会	第13回通常総会、東京で開催
10月23日	第20回 全国 (福島) 大会	第20回全国（福島）大会、福島県体育館にて開催。テーマは「ふれあいの輪－数は力だ」。特別講演は高知アルコール問題研究所長 下司高磨顧問。3,400名参加。

昭和59年 5月1日 (1984年)	機関誌「かがり火」の発行	連盟は、昭和48年3月31日より機関誌「全断連」を発行するが不定期の発行であった。 (財)日本船舶振興会の助成を得て昭和59年5月1日、「かがり火」と改名し定期(隔月)に刊行、今日まで続いている。 昭和61年より購読料収入により自己資金で発行している。
6月3日	第14回 通常総会	第14回通常総会、東京都新宿区 日本青年館にて開催。
10月21日	第21回 全 国 (岡山) 大会	第21回全国(岡山)大会、岡山県営体育館にて開催。参加者4,800名。 全断連顧問、なだ・いなだ(堀内秀)が記念講演を行う。
昭和60年 (1985年)	佐賀県における断酒会の発足	佐賀県では昭和43年10月15日に佐賀県矯正断酒実践会が発足し、全断連にも加盟、昭和57年に再加盟するがその活動は低迷する。 国立肥前療養所で村上優先生の協力により昭和60年に開設されたアルコール病棟を母体として佐賀肥前断酒会(会長・龍ヶ江)が発会。 昭和62年、伊万里断酒会が発足、平成11年に両者は合併し、佐賀県断酒連合会を結成する。
3月24日	第1回北陸ブ ロック大会	従来中部・北陸大会として開催されたブロック大会から北陸地方が独立、その第1回が新潟市公会堂にて開催された。参加者は500人。
6月16日	第15回 通常総会	第15回通常総会、東京都新宿区四谷公会堂にて開催。
9月26日	全断連、保健 文化賞受賞	全断連の長年にわたる断酒会活動の功績が認められ、東京都の推薦により厚生大臣から第37回保健文化賞を受賞する。
10月13日	第22回 全 国 (長崎) 大会	第22回全国(長崎)大会、長崎国際体育館にて開催。 4,620名参加。特別講演は西脇病院長 西脇健三郎氏の「体験談に学んだこと」。アルコール症患者の治療経験から体験談の効用を力説された。関連行事としてアルコール問題関係者会議4分科会開催。
昭和61年 3月1日 (1986年)	全断連の歌公 募	保健文化賞受賞記念事業として「全断連の歌」を公募することが決まり「かがり火12号(昭和61年3月1日発行)」に掲載される。
5月	第42回松村断 酒学校	高知市教育会館(参加者 571名) 年に2回開催されていたが、昭和61年より年1回の開催に変更。 また、断酒学校の中で「身体障害者断酒の集い」が併催され「虹の会」へと発展していく。
6月1日	第16回 通常総会	第16回通常総会、東京都新宿区四谷公会堂にて開催。 女性酒害者対策全国展開や全断連理事選出基準変更ルール作りを採択。
7月	国際化の推 進、訪欧旅行	各地断酒会有志で約1週間の欧州視察を行う。 大野理事長以下25名が参加、スウェーデン、フランス、イギリスを訪問した。スウェーデンではレンカルナと交歓し、昭和63年10月15日第1回アールオリンピック開催の基礎となる。

10月5日	第23回 全国 (札幌) 大会	第23回全国(札幌)大会、札幌市厚生年金会館にて開催。 参加者2,615名。聖母会天使病院精神神経科医長、札幌天使女子短期大学教授、村田忠良氏が「ダンテとゲーテ－断酒への回心とその維持について－」との演題で記念講演を行った。
昭和62年 5月19日 (1987年)	アルコール問題議員懇談会 発足	東京永田町の自民党本部・8階会議室でアルコール問題議員懇談会が開催された。全断連から大野徹理事長及び事務局が出席する。
6月28日	第17回 通常総会	第17回通常総会、東京都新宿区四谷公会堂にて開催。
7月28日	新聞断酒完全 復刻版	“新聞断酒”、昭和36年11月12日、第1号から昭和47年8月1日、118号まで収録。草創期の断酒会を知る貴重な史料である。高知アルコール問題研究所より出版。
10月25日	全断連の歌決 まる	全断連では昭和60年9月保健文化賞の受賞を期に“全断連の歌”を制定することを決定、公募した。 最優秀作品となったのは兵庫県芦屋断酒会の山本淳二の作詞で、作曲は北海道の桑山真弓氏に依頼、昭和62年10月25日全断連第24回全国(三重)大会で発表された。
10月25日	第24回 全国 (三重) 大会	第24回全国(三重)大会、三重県営総合競技場体育館にて開催。 参加者5,230名。三重県立高茶屋病院医師・猪野亜朗氏が、「断酒会の効果と役割について」との演題で記念講演を行った。
昭和63年 6月26日 (1988年)	第18回 通常総会	第18回通常総会、東京都新宿区四谷公会堂にて開催。
9月17日	第1回全断連 久里浜セミ ナー開催	全断連主管で昭和63年9月17日～18日の2日間にわたり国立療養所・久里浜病院内”研修棟”で第1回全断連久里浜セミナーが開催された。セミナーは全断連セミナーとして今日まで引き続き開催されている。
10月16日	第25回 全国 (広島) 大会	第25回全国(広島)大会、広島市サンプラザにて開催。 参加者4,648名。呉みどりヶ丘病院長・長尾澄雄氏が「アルコール症の本質」との演題で記念講演を行った。 前日、全断連創立25周年記念行事として第1回アルリンピックを開催、スウェーデン・レンカルナ等の参加があった。
平成1年 6月25日 (1889年)	第19回 通常総会 理事長選出	第19回通常総会、東京新宿区四谷公会堂にて開催。 理事長に井原利を選出する。前理事長、大野徹は名誉会長に就任。
10月21日	ブロック責任 者制	大阪市天王寺区都ホテルで臨時常任理事会を開催。ブロック責任者制(現ブロック長)を制定する。
10月22日	第26回 全国 (大阪) 大会	第26回全国(大阪)大会、大阪城ホールにて開催。 参加者7,052名。直木賞受賞作家・難波利三氏が「人間ばんざい」との演題で記念講演を行った。

平成2年 5月30日 (1990年)	アルコール問題議員懇談会再開	平成2年5月30日、昭和62年以降中断していたアルコール問題議員懇談会が衆議院第1議員会館会議にて再開された。全国の断酒会が地元の国会議員に働きかけ34名の参加を得た。
6月10日	第20回通常総会	第20回通常総会、大阪府豊中市立市民会館にて開催。
10月21日	第27回全国(京都)大会	第27回全国(京都)大会、京都府総合見本市会館にて開催。大会は体験発表中心で記念講演はなかった。参加者6,042名。前日の関連行事で初めての試みとして「子供達の集い」を開催、20名の参加があった。
平成3年 3月31日 (1991年)	役員定年制	平成2年度全断連定例常任理事会開催。役員定年制などを承認。
3月31日	「指針と規範」の発行	平成3年3月31日「断酒新生指針と断酒会規範」が1年有余の検討を経て発刊、全国各地で学習会が開催される。
6月23日	第21回通常総会	全断連第21回通常総会、浜松市福祉文化会館にて開催。
8月9日	アルコール問題議員懇談会	平成3年度第1回アルコール問題議員懇談会を参議院議員会館にて開催。アルコール問題総合基本法の早期成立や公的補助金の継続を請願する。
10月6日	第28回全国(新潟)大会	第28回全国(新潟)大会、新潟市産業振興センターにて開催。参加者約4,500名。新潟河渡病院・和泉貞次院長が「三つのアイ」との演題で記念講演を行う。
平成4年 4月29日 (1992年)	大野徹名誉会長が勲四等瑞宝賞叙勲	平成4年4月29日、全断連大野徹名誉会長が勲四等瑞宝賞を叙勲された。これは単に個人の荣誉に留まらず、全断連が叙勲対象団体として社会に認められた事になる。
6月21日	第22回通常総会	第22回全断連通常総会、大津市滋賀会館にて開催。
8月15日	サブグループ・シングルの誕生	名古屋緑断酒新生会主催の「お盆・体験談の集い」の関連行事として「単身者の集い」を開催。その場に集まったメンバーが発起人となってサブグループ・シングルが誕生する。
11月15日	第29回全国(奈良)大会	第29回全国(奈良)大会 奈良市中央体育館にて開催 参加者5,888名。東大寺塔頭北林院の狭川普文住職が記念講演を行った。
平成5年 3月27日～ 28日 (1993年)	評議員制度	平成4年度定例常任理事会を東京グリーンホテル淡路町にて開催。評議員制度新設を決定する。
6月27日	第23回通常総会	第23回全断連通常総会、埼玉熊谷市立文化センターにて開催。

9月1日	「指針と規範」の発行	断酒必携「指針と規範」普及版発行
12月5日	第30回 全国(大分)大会	第30回全国(大分)大会 大分県総合体育館にて4,800名の参加を得て開催された。堀内秀氏(なだいなだ)連盟顧問が「物語ることの意味—ことはじめのころ」の演題で記念講演を行った。 尚、前日別府市鶴見園グランドホテルにて全断連創立30周年記念パーティを開催し約300名の参加があった。
平成6年 6月26日 (1994年)	第24回 通常総会	第24回通常総会、岡山県総合福祉会館にて開催。全国不統一であった基本理念を表わす「誓いの言葉」を改正し、「心の誓い」「家族の誓い」「断酒の誓い」として全国統一の「誓いの言葉」を制定した。
7月16日	映画製作	「もうひとつの人生」映画製作委員会発足。製作委員長は井原利理事長、映画作成は記録映画の専門プロダクション「シグロ」に依頼した。
10月1日	家族のための「回復への指針」発行	全断連顧問・猪野亜朗氏の協力を得て刊行。家族自らの回復という視点を持つことで、大きな効果があるものと期待される。
10月10日	第31回 全国(鳥取)大会	第31回全国(鳥取)大会 米子産業体育館で4,182名の参加を得て開催された。記念講演は鳥根大学講師・Y M C A米子医療福祉専門学校講師・乗本吉郎氏で、「人間関係と健康」と題し、断酒会の人間関係と活動からは、学ぶところが多いと強調された。
平成7年 1月31日 (1995年)	義援金の呼びかけ	平成7年1月17日早朝に発生した阪神淡路大震災で断酒会には死者1名、行方不明5名、負傷5名、倒損壊133棟の被害があった。各都道府県の連合会長あてに平成7年1月31日付で義援金の呼びかけを行う。 かがり火67号(平成7年5月1日発行)には平成7年3月15日時点で10,010,738円の義援金が集まった事を報告している。
3月25日	第32回 全国(神戸)大会 開催決まる	平成7年3月25日、常任理事会を全断連本部会議室にて開催。阪神淡路大震災で壊滅的な被害を受け開催が危ぶまれていた第32回全国(神戸)大会が平成8年1月21日に神戸国際展示場で開催されることになった。
6月	映画「もうひとつの人生」完成	全断連では会員に「もうひとつの人生」制作のため献金を呼びかけた。かがり火には平成7年3月31日、累計で5,092,491円の献金があった事を報告している。また、芸術文化振興基金から25,000,000円の助成があり、平成7年6月に完成。監督は小池征人氏で、平成7年度総会終了時、神奈川県立精神保健センターで試写会が開催された。また映画製作委員会は、映画上映委員会に移行した。
平成7年 6月25日	第25回 通常総会	第25回通常総会、神奈川県立精神保健センターにて開催。評議員制度スタート。
平成8年 1月21日 (1996年)	第32回 全国(兵庫)大会	第32回全国(兵庫)大会 神戸ポートアイランドホールにて6,018名の参加を得て開催。阪神・淡路大震災で平成7年10月開催予定が変更されたもの。記念講演は神戸市社会福祉協議会 市民福祉大学学長・田中国夫氏の「日本人論」で、日本人の原点について語られ大会テーマの「新生への道」に役立つ講演であった。

6月23日	第26回通常総会	第26回通常総会、愛知県瀬戸市愛知県労働者研修センターにて開催。
10月13日	第33回 全国(徳島)大会	第33回全国(徳島)大会 アスティとくしまにおいて開催、4,540名の参加があった。四国大学教授・パトリス・オラリィ氏が「私のみた日本」と題して記念講演を行った。
平成9年 6月22日 (1997年)	第27回通常総会	第27回通常総会、福島県郡山市公会堂にて開催。橋本勝之新理事長が選出される。
11月9日	第34回 全国(熊本)大会	第34回全国(熊本)大会、パークドーム熊本にて開催。4170名参加。熊本大学医学部助教授・原田正純氏が「水俣が映す世界」との演題で記念講演を行った。
12月9日	橋本勝之受賞	障害者関係功労者として厚労省の推薦により全断連理事長・橋本勝之が内閣総理大臣賞を受賞する。
平成10年 4月14日 (1998年)	大野徹逝去	全断連元理事長、大野徹逝去。
6月6日～ 8日	関西断酒学校	関西断酒学校開校、大阪府富田林市願昭寺にて開催。264名参加。関西断酒学校は後に近畿ブロック断酒学校となる。
6月28日	第28回通常総会	第28回通常総会、福岡市立中央市民センターにて開催。
8月2日	第1回公開セミナー	第1回全断連(岡山)公開セミナー“アルコール問題を考える集い”が岡山県総合福祉会館で開催された。一般市民32名を含む450名の参加があった。以後、全断連の公開セミナーは平成19年6月3日第9回(高知)公開セミナーまで開催地を変えて毎年開催されることになる。
10月4日	第35回 全国(旭川)大会	第35回全国(旭川)大会 旭川市 大雪アリーナに全国から3,200余名が集まった。小樽石橋病院医師・白坂知信氏が「心の扉を開く」の演題で記念講演を行った。
平成11年 6月15日 (1999年)	アルコール問題議員連盟	休止していたアルコール問題議員懇談会に代わり、アルコール問題議員連盟が結成された。全断連からは、橋本勝之、小林哲夫、西村幹夫が出席。
6月27日	第29回通常総会	第29回通常総会、長野県県民文化会館にて開催。平成11年度全断連活動要綱を発表。
7月17日	北陸断酒学校開校	平成11年7月17～18日、富山県、太閤山温泉にて第1回北陸断酒学校を開催、220名の参加者があった。
8月1日	第2回公開セミナー	第2回全断連(愛知)公開セミナー“アルコール問題を考える集い”が名古屋市公会堂で開催された。一般市民27名を含む641名の参加があった。
9月2日	NPO法人化	全断連は加盟断酒会にNPO法人格を取得するように推奨。その第1号として鳥取県断酒会が平成11年9月2日に登記を終了しNPO法人格を取得する。

10月	ホームページ作成	全断連のホームページを開設する。
10月15日	かがり火縮刷版の発行	“全断連”昭和48年3月31日第1号から昭和58年3月31日第29号までと“かがり火”昭和59年5月1日第1号から平成11年3月1日第90号までを収録。
10月17日	第36回全国(神奈川)大会	第36回全国(神奈川)大会、川崎市とどろきアリーナにて開催。 4,022名の参加があった。 国立療養所久里浜病院院長・白倉克之氏が「アルコール症をめぐる最近の動向」との演題で記念講演を行った。
11月19日～21日	近畿ブロック断酒学校	関西断酒学校が新たに近畿ブロック断酒学校として大阪府立少年自然の家で開催された。302名参加
平成12年6月25日(2000年)	第30回通常総会	第30回通常総会を広島労働会館・ワークピア広島にて開催。
7月1日	冊子発行	未成年者向けリーフレット「中・高校生のためのアルコール教室」発行
8月20日	第3回公開セミナー	第3回全断連(宮城)公開セミナー“アルコール問題を考える集い”が仙台市民会館で開催された。一般市民の参加が200名以上、総勢630名の参加があった。
10月22日	第37回全国(福岡)大会	第37回全国(福岡)大会を福岡国際センターにて開催。 雁の巣病院院長代行・熊谷雅之氏が「酒を止めながらどう生きるか」との演題で記念講演を行った。参加者数、3,840名
平成13年1月1日(2001年)	活動指針21	「21世紀を心の世紀にしたい」と“社団法人全日本断酒連盟 活動指針21”をかがり火101号(平成13年1月1日号)にて発表する。
6月24日	第31回通常総会	第31回通常総会を新潟 ミナミプラザホテルにて開催。
7月1日	英語名の変更	全断連の英語名はANSA(All Nippon Sobriety Association)であったが、断酒と言う言葉に適切な英語はなく、高知大学英語学の沢村教授より絶対禁酒を表すアブスティナンスが一番適切であろうとの指摘があり英語名をANAA(All Nippon Abstinence Association)に変更する。平成13年3月24日定例理事会で、全断連のロゴタイプをゼンダンレンの頭文字ZDRとすることを決定。
8月	冊子発行	平成13年度社会福祉法人・医療事業団の助成を受け、「親子を考える」を発行。
9月16日	第4回公開セミナー	第4回全断連(北海道)公開セミナーがグリーンホテル札幌にて開催された。テーマは“親子を考える”で一般252名を含む664名の参加があった。
10月14日	第38回全国(大阪)大会	第38回全国(大阪)大会が門真スポーツセンターにて開催。 5,300余名参加。小杉クリニック理事長・小杉好弘氏、新阿武山病院理事長・今道裕之氏、新生会病院理事長・和気隆三氏がそれぞれの立場から記念講演を行った。

11月28日	アルコール問題対策の立法化	アルコール問題議員連盟の第2回総会が参議院議員会館にて開催され、全断連より米国の「アルコール乱用及びアルコール依存症の予防・治療・リハビリテーションに関する総合法（通称ヒューズ法）」について説明し、アルコール基本法の議員立法の制定を提案する。
12月8日～9日	アメシスト支援	平成13年12月8、9日に第1回、東京都江戸川区深川のホテルB&Gにおいて女性が断酒しやすい体制作りの研究会が開催される。続いて第2回目を平成14年2月2、3日に神戸で、3回目を平成14年3月16、17日に東京で開催した。これは財団法人三菱財団の助成事業で開催されたもので、平成14年10月に結果をまとめて冊子「女性が断酒継続しやすい体制づくりの研究」を作製した。
平成14年6月23日(2002年)	第32回通常総会	第32回通常総会が京都テルサにて開催される。
9月15日	第5回公開セミナー	第5回全断連（熊本）公開セミナーが熊本テルサにて開催された。テーマは“親子を考える”で一般130を含む467名の参加があった。
10月27日	第39回全国（埼玉）大会	第39回全国（埼玉）大会を埼玉スーパーアリーナにて開催。4,100名の参加あり。原宿カウンセリングセンター所長・信田さよ子氏が「新たな絆を求めて」との演題で記念講演を行った。
12月	全断連ホームページ	公益法人として情報公開を要請されていること、相談窓口の明示の必要性から全断連ホームページを更新する。
平成15年3月29日(2003年)	ロゴタイプの決定	平成14年度定例理事会において、全断連ロゴタイプデザインZDRが承認された。平成13年3月24日、平成13年度定例理事会で全断連ロゴをZDRと決定したことを受け、公募の結果、長野断酒新生会・清瀧秀晃の作品が選ばれたもの。
5月12日	井原利元理事長叙勲	井原利元理事長が勲五等双光旭日章を叙勲。
5月16日	アルコール問題議員連盟	アルコール問題議員連盟の会議を衆議院第二議員会館会議室にて開催された。酒害予防法制定を検討、既に実現している米国のヒューズ法の日本版の検討を要望する。
6月22日	第33回通常総会	第33回通常総会が札幌市定山湊ホテルルミニオーネにて開催された。
10月19日	第40回全国（愛知）大会	第40回全国（愛知）大会 名古屋総合体育館にて開催。参加者 4,500名。記念講演「全断連40年の歩み」小林哲夫「東名高速道路酒酔いトラック事故で子供2人を失って～飲酒運転の悲劇を繰り返さないために～」と題して、千葉市在住の井上保孝・郁美夫妻が飲酒運転の怖さを訴えた。
11月30日	第6回公開セミナー	第6回全断連（埼玉）公開セミナーが埼玉県県民活動総合センターにて開催される。埼玉県立精神保健センター長・守屋氏が「機能不全家族について」との演題で基調講演を行った。400名の参加があった。

平成16年 3月15日 (2004年)	冊子発行	平成15年度独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、「定年後を考える－断酒会員・家族の体験」を発行。
6月27日	第34回 通常総会	第34回通常総会、山口県セミナーパーク講堂にて開催。
10月24日	第41回 全国 (京都) 大会	第41回全国(京都)大会が京都府立体育館にて開催。 4,324名の参加。元泉州病院・院長森岡洋氏が「仲間だからできること」との演題で記念講演を行った。
平成17年 7月31日 (2005年)	松村春繁「生 誕100年」	全断連広報紙「かがり火126号(平成17年3月1日発行)」にて、松村春繁「生誕100年」特集を掲載する。
3月7日	冊子発行	平成16年度独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、「親は子供に何ができるか－断酒会員、家族の体験－」を発行。
6月26日	第35回 通常総会	第35回通常総会、東京晴海グランドホテルにて開催。 新理事長に三田義久が選任される。
9月25日	第42回 全国 (札幌) 大会	第42回全国(札幌)大会が北海道立総合体育センターにて開催。 参加者数3,031名。札幌医科大学付属病院副院長、神経精神科教授・斎藤利和氏が、「やっぱり脳の中でなにか起こっている－30年前の約束の中間報告－」との演題で記念講演を行った。
11月6日	第7回市民公 開セミナー	第7回全断連(新潟)市民公開セミナーが新潟県三条市の三条市総合福祉センターにて開催される。テーマは“親子を考える”で断酒会会員・家族を中心に200余名の参加があった。
12月13日	井原利逝去	全断連元理事長、井原利逝去。
12月15日	事務所移転	豊島区目白の事務所が老朽化の為、千代田区岩本町へ移転した。
平成18年 3月 (2006年)	冊子・報告書 発行	平成17年度独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、「等生化・偏見と子供の教育に関する研究事業報告書－アルコール依存症の偏見対策」 「アルコール依存症偏見対策マニュアル」を発行。
6月25日	第36回 通常総会	第36回通常総会、東京晴海グランドホテルにて開催。 公益社団法人の取得に向け定款・細則を変更し新規定款を発行。 全断連の総会は全国各地で開催されていたが、以後、全断連の通常総会は東京にて開催することを決定。
10月8日	第43回 全国 (広島) 大会	第43回全国(広島)大会を広島サンプラザホールにて開催。 参加者数3,616名。アルコール問題の体験を通して、女優の東ちづるさんより「心ゆたかに自分らしく」との演題で記念講演があった。
12月3日	第8回公開セ ミナー	第8回全断連(滋賀)公開セミナーが滋賀県守山市ライズヴィル都賀山にて開催される。テーマは“親子を考える”で一般市民23名を含む130名の参加があった。
平成19年 1月1日 (2007年)	断酒宣言の日 制定	平成19年1月1日、全断連結成大会の記念すべき11月10日を「断酒宣言の日」に制定、かがり火137号(平成19年1月1日発行)にて報告する。

3月	冊子発行	平成18年度独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、「アルコール依存症 家族全体の回復支援事業報告書」と「向き合おう！家族」を発行。
6月3日	第9回公開セミナー	第9回全断連（高知）公開セミナーが高知市高知城ホールにて開催される。テーマは“親子を考える”で一般市民27名を含む207名の参加があった。講演は水澤都加佐氏。 全断連の主催する公開セミナーは第9回で終了、各地で開催される市民セミナーへと引き継がれることになる。
6月24日	第37回通常総会	第37回通常総会を東京晴海グランドホテルにて開催。 平成19年より導入予定の各都道府県会員1人当たり300円/月の負担金が了承された。
10月	冊子発行	「断酒のすすめ」リニューアル版を発行する
10月21日	第44回 全国（宮城）大会	第44回全国（宮城）大会が仙台市体育館にて開催。 参加者数2,595名。東北会病院院長・石川達氏が「世代連鎖からの回復—まずホッとな会話から—」との演題で記念講演。
12月26日	飲酒運転問題対策で政府協力	常習飲酒運転推進会議の「常習飲酒運転者対策の推進について」の会議があり全断連は常習飲酒運転者対策に関するヒアリングと協力の打診を受けた。
平成20年1月（2008年）	法務省の要請で交通事犯者教育への協力開始	前年の内閣府のヒアリング結果を受けて、法務省矯正局から「常習飲酒運転問題対策」について全断連への正式協力要請があった。この中で交通刑務所での処遇プログラムへの協力が要請され、山形、市原、豊橋、加古川の各交通刑務所4か所で集団ミーティング、教材提供への協力を行うこととなった。
6月22日	第38回通常総会	第38回通常総会、東京晴海グランドホテルにて開催。平成19年度より政府から常習飲酒運転者対策への協力を要請されたこと、新公益法人認定法の施行に伴う組織改革が不可避であることが報告された。
7月1日	アルコール依存症と自殺	平成20年3月26日、東京星陵会館において、国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センターの主催で「アルコール依存症と自殺」をテーマにした意見交換会が開催された。平成20年7月「かがり火」別冊として意見交換会の記録を発行し、配布した。
8月	冊子発行	「酒をやめたい人のために」リニューアル版発行
9月28日	第45回 全国（滋賀）大会	第45回全国（滋賀）大会が滋賀県立体育館にて開催。 参加者数3,752名。延暦寺 長藪大僧正 小林隆彰師が「花咲け、人咲け、命咲け。歩けなくても心咲け」と題して記念講演。
11月	自殺問題調査に協力	平成20年11月、内閣自殺予防総合対策センターの要請を受け、飲酒と自殺問題の関係を調査するためのアンケート調査に協力、全断酒会員及び連合会を対象に実施した。 翌年3月、高い回収率によりきわめて信頼度の高い基礎データを提供することが出来、その貢献度を評価された。

11月10日	全国飲酒運転撲滅キャンペーン	断酒宣言の日を記念して30の都道府県、36の断酒会、連合会が参加して全国70か所で一斉に「飲酒運転撲滅キャンペーン」を実施。断酒会初の全国統一行動が実現した。
12月	「公益法人認定法」施行	平成18年に公布された「公益法人認定法」が施行の運びとなった。これに先立ち平成20年6月の通常総会において公益法人移行認定申請を行うことを議決、施行とともに内閣府に対する申請作業の準備を開始した。
12月	冊子発行	「青少年のためのアルコール教室」リニューアル版発行
平成21年 6月1日 (2009年)	かがり火縮刷版の発行	“かがり火”平成11年5月1日第91号から平成21年3月1日、第150号まで収録。
6月21日	第39回通常総会	第39回通常総会、東京晴海グランドホテルにて開催。 全断連創立以来の抜本的な組織改革を行うべく全国地域断酒会への周知・説明を重ねてきた組織改革案が通常総会において議決された。 従来の志願制による代議員を廃止。全地域断酒会員を全断連会員とし平等に会費を負担。選挙による代議員制に変更した。この体制改正により公益社団法人認定申請への第一歩が踏み出された。
7月11日	組織強化部会発足	平成21年度、第1回定例理事会にて、公益社団法人としての事業展開の方向性と新しい会員の増加と定着の検討を目的に組織強化部会を発足させた。
9月	冊子発行	リーフレット「家族のためのアルコール教室」「もしかしたらアルコール依存症」を発行。
10月18日	第46回全国(岡山)大会	第46回全国(岡山)大会 岡山市 桃太郎アリーナにて3,500名の参加を得て開催された。記念講演は北海道石橋病院院長・白坂知信氏が「私たちが断酒会」と題して、依存症の実態と断酒会の果たすべき役割について講演を行った。
平成22年 2月1日 (2010年)	代議員選挙の開始	従来の全断連代議員は有志による代議員制度で、その会費によって全断連を運営してきた。全断連が社団法人から公益社団法人に移行するに当たりすべての会員が全断連の正会員となり、全断連の運営費として年額3,600円を負担することになった。 新制度移行に伴い定時社員総会において、選挙による代議員を選出することになり、平成22年2月1日第1回の代議員選挙が公示され、選挙を実施、1,823名の代議員が選出された。任期は2年で、2年ごとに代議員の選出のための選挙を実施することになる。
4月	冊子発行	リーフレット「断酒美人 アメシスト」発行
6月27日	第40回通常総会	第40回通常総会、東京晴海グランドホテルにて開催。 公益社団法人への移行に伴う“社団法人全日本断酒連盟”としての最後の通常総会となる。公益社団法人移行に伴う定款の変更が提案され賛成多数で承認された。

7月	冊子発行	リーフレット「アルコール依存症から新しい人生へ」「偏見をなくすために」「自殺予防とアルコール」を発行。
8月5日	「アルコール関連問題基本法」推進開始	平成22年5月20日、WHO総会において世界アルコールの有害使用低減戦略が採択されたことを契機にアルコール問題関連3学会が打ち出した「アルコール関連問題対策基本法」に賛同し同年8月にアルコール問題議員連盟に協力を求め快諾を得るなど本格的な推進活動を開始した。
10月3日	第47回全国（和歌山）大会	第47回全国（和歌山）大会 和歌山ビックホールにて3,200名の参加を得て開催された。記念講演にはNHK朝の連続テレビ小説「ふたりっ子」の实在モデルで歌手・叶麗子さんが「心変われば人生変わる」との演題で記念講演を行った。 また、前日にはアルコール依存症からの回復をテーマにした映画「酔いがさめたら、うちに帰ろう」の試写会があった。
平成23年3月26日（2011年）	東北地方太平洋沖地震・災害義援金の要請	平成23年3月11日午後発生した東日本大地震で被災された東北6県と関東1県の断酒会員に対し災害見舞金を送る事を決定し、義援金の拠出を呼び掛けた。
4月1日	公益社団法人全日本断酒連盟設立	3年越しで着実に準備を進めてきた公益社団法人移行認定申請を行い3月28日内閣府より移行認定書の交付を受けた。4月1日付けで社団法人を解散、公益社団法人全日本断酒連盟の登記を完了した。
4月1日	「みんなの全断連短信」発刊	公益社団法人移行を契機として、全断酒会員を配布対象に、全断連と全国の断酒会の活動状況を速報する月刊紙「みんなの全断連短信」が発刊の運びとなった。
5月1日	かがり火紙面刷新	B4のタブロイド版で発行されてきた全断連の広報紙「かがり火」は全断連の公益社団法人化に伴い紙面を見やすいA4版に刷新した。
6月26日	第1回定時社員総会	第1回定時社員総会、東京晴海グランドホテルにて開催。 公益社団法人移行後、初めての定時社員総会。新理事長に中田克宜が選任された。
7月1日	頑張る東北を紹介	東日本大震災で混乱が続く東北地方で平成23年5月15日山形県蔵王温泉で第35回東北ブロック（山形）大会が開催された。かがり火164号（平成23年7月発行）では「全国から激励、安堵の声」と1面で紹介、震災と各県の現状を報告する特集を行った。
8月	冊子発行	女性酒害者、家族の体験手記「夜明けまでの長い旅Ⅲ」発行。Ⅰ、Ⅱはアメシストの会より発行していたが、Ⅲは全断連より発行。
11月	アクション・プラン発表	組織強化部会は2年半にわたる検討の成果として、アクション・プラン～断酒会発展のために～を発表。同時に本部ならびに各地域にアクション・プラン実行委員会を立ち上げ、その実行推進を図ることとし、地域・本部による合同会議を展開した。 平成23年12月1日冊子「アクション・プラン～断酒会発展のために～」作成、各都道府県連を通じて配布。各地で学習会活動を展開する。

10月23日	第48回 全国 (静岡) 大会	第48回全国(静岡)大会 コンベンションセンター グランシップにて3,118名が集い挙行された。中田克宣理事長は主催者挨拶で公益社団としてスタートの年であり、大会テーマでもある「更なる公益活動をめざして」会員家族一致団結して活動することの重要性を訴えられた。記念講演は、僧侶 佐治妙心が行った。
平成24年 3月 (2012年)	冊子発行	教宣部会より「酒害相談研修講座テキスト」発行、組織強化部会よりリーフレット「よりよい断酒生活をおくるために」を発行する。
4月	冊子発行	リーフレット「高齢アルコール依存症者の回復のために」発行
5月31日	「アル法ネット」 設立総会 開催	アルコール関連問題対策基本法推進ネット アルコール関連精神3医学会とアスク、全断連による略称「アル法ネット」を結成、参議院議員会館において基本法制定を目指す歴史的な総会を開催した。
6月24日	第2回 定時社員総会	第2回定時社員総会、東京晴海グランドホテルにて開催。
10月28日	第49回 全国 (兵庫) 大会	第49回全国(兵庫)大会 ポートアイランドホールにて。参加総数3,677人。講演会は「災害とアルコール問題」に関わる体験発表と光風病院院長・幸地芳朗氏の講演「被災地-絆-断酒会」を行った。
平成25年 1月1日 (2013年)	冊子発行	平成24年度東京セミナー、和気隆三氏講演録「新たな展開のためには昼例会を～断酒会はこれで良いのか～」を発行。無償配布した。
3月13日	橋本勝之逝去	全断連元理事長、橋本勝之逝去。
3月15日	アルコール健康 障害対策基本 法制定への 活動	アル法ネットより「アルコール健康障害対策基本法の制定にご賛同ください」を発行する。全断連はアル法ネットの中軸としてアルコール問題議員連盟や賛同議員の獲得など積極的な活動を展開する。 また「アルコール健康障害対策基本法制定を願う集い」を共同開催方式で平成25年5月11日愛知県の東建ホール、続いて平成25年9月1日大阪府の堺市ビッグ・アイ(国際障害者交流センター)にて開催、それぞれ449名、1,239名の参加を得た。
6月23日	第3回 定時社員総会	第3回定時社員総会、東京晴海グランドホテルにて開催。
9月	冊子発行	リーフレット「第二の否認を解く」「家族とともに回復を」を発行する。
11月17日	第50回全国 (沖縄) 大会	第50回全国(沖縄)大会、宜野湾市沖縄コンベンションセンターにて開催。全断連結成50周年記念事業として前半に式典を執り行った。 記念式典では久里浜医療センター、下司病院、石橋病院院長・白坂知信氏、日本大学教授・松下武志氏・新生会病院理事長・和気隆三氏、呉みどりヶ丘病院院長・長尾澄雄氏に感謝状を贈呈した。 アルコール問題議員連盟会長・中谷元衆院議員他議連議員が出席、アルコール健康障害対策基本法の国会上程が大詰めを迎えることを報告、制定後の断酒会の活動について激励。内閣総理大臣より祝電を受ける。 記念講演は白坂知信氏が行った。参加総数2,143名。

12月8日	「アルコール健康障害対策基本法」成立	11月21日基本法が衆議院本会議に上程、可決、続いて12月7日参議院本会議に上程、可決され、ここに全断連結成以来の念願であるアルコール依存症等アルコール関連問題解決のための法律が奇しくも50周年という節目の年を迎えた中で制定されるに至った。
-------	--------------------	--